

神奈川県におけるセグロカッコウの初記録

山口喜盛・葉山嘉一・畑 俊一・神戸宇孝・鈴木茂也・原 一利

Yoshimori Yamaguchi, Yoshikazu Hayama, Shun-ichi Hata, Utaka Godo,
Shigeya Suzuki and Kazutoshi Hara: The First Record of Indian Cuckoo

Cuculus micropterus from Kanagawa Prefecture

はじめに

セグロカッコウ *Cuculus micropterus* は、ロシア南東部からインド・ネパールと中国で繁殖し、東南アジアで越冬する（吉井，2005）。日本では迷鳥として主に日本海側に渡来し、山形，鳥取，島根，舩倉島，佐賀，長崎などで記録されている（日本鳥類目録編集委員会，2000）。なお，長崎県では対馬でも記録されている。

筆者らは，本種を丹沢山地において神奈川県下で初めて記録したので，ここに確認状況を報告する。なお，本記録のうち山口と葉山は丹沢大山総合調査鳥類グループによる希少種調査，畑と神戸は日本野鳥の会神奈川支部による定線調査の際に確認したものである。

なお，文中の学名は日本鳥類目録第6版（日本鳥類目録編集委員会，2000）によった。

確認状況

確認したのは2005年5月21日，6月1日，6月4日の3日間であった。確認状況は次のとおりで，確認場所を図1に示した。

- ・2005年5月21日，山口は午前6時30頃から9時15分頃までの間に，石棚山から檜洞丸の標高約1400mから1500m付近で頻繁に鳴き声を聞き，葉山は午前9時44分から9時54分頃，熊笹の峰標高約1530m付近で鳴き声を聞いた。
- ・2005年6月1日，午前1時30分頃から6時頃までの間に，神戸，畑らは西丹沢自然教室から檜洞丸に登るつつじ新道の途中で断続的に鳴き声を聞いた。
- ・2005年6月4日，午前2時過ぎから夜明け頃までの間に，鈴木，原は6月1日とほぼ同じ場所で鳴き声を聞いた。

蒲谷・松田（1996）によるとセグロカッコウの鳴き声は，4音を1節として「カ，カ，カ，コー」，「ポ，ポ，ポ，ポー」または「カッカッカッコウ」，「カカッカッコー」と表現しているが，山口は「ポワポワポワポー」，葉山は「クワッ，クワッ，クワッ，クオー」，畑は「ファファファフオウ」と聞こえた。いずれも四声目は下がった。他に類のない鳴き声であり，ツツドリ *Cuculus saturatus* とカッコウ *Cuculus canorus* の特徴をあわせたような声であった。行動は他のホトギス類と似ており，盛んに鳴きながら広い範囲を飛び回り，稜線上の高木の梢に止まることがあった。梢に止まった姿を樹下から観察したところ，ほぼツツドリと同形，同大に見えた。鳴き声は昼夜共に聞かれた。

確認された場所の環境

石棚山から檜洞丸付近の繁殖期の鳥類相は，ヒガラ *Parus ater*，シジュウカラ *Parus major*，ヤマガラ *Parus varius*，ゴジュウカラ *Sitta europaea*，コルリ *Luscinia cyane* を上位5種としており（山口，2004），本州のブナ林に

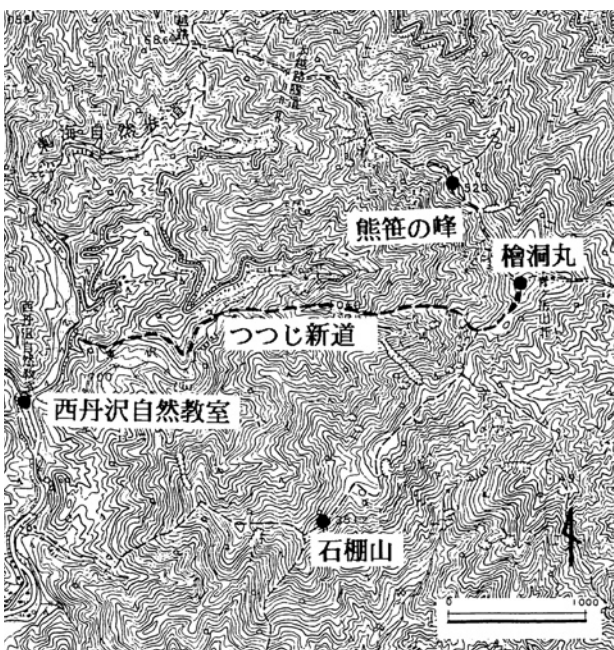


図1. セグロカッコウの確認場所
（地図は国土地理院発行の2万5千分の1地形図（中川）を使用）

生息する鳥類の種構成と特に変わりはなかった。この周辺はブナを主体とする落葉広葉樹林からなり、中高木層はシナノキ、ヤマボウシ、カエデ類など、低木層はツツジ類など、林床はスズダケ、マルバダケブキ、オオバイケイソウなどが見られた。近年、大気汚染などが原因と考えられているブナなど高木の枯死や過密化したシカの採食圧による林床の裸地化が進んでいるが、大木が多く比較的自然度の高い地域であった。

まとめ

セグロカッコウが滞在していたのは、少なくとも2005年5月21日から6月4日の15日間であった。また、丹沢大山総合調査により5月から7月にかけて、稜線部と山麓部の広い範囲に鳥類の調査員が入山したが、確認されたのは今回の記録のみであったことから、セグロカッコウ

は、熊笹の峰から石棚山周辺の限られた地域で行動していたことが推察される。

引用文献

- 蒲谷鶴彦・松田道生, 1996. 日本野鳥大鑑鳴き声 333 上, 199pp. 小学館, 東京.
日本鳥類目録編集委員会, 2000. 日本鳥類目録改訂第6版, 345pp. 日本鳥学会, 帯広.
吉井正, 2005. 世界鳥名事典, 598pp. 三省堂, 東京.
山口喜盛, 2004. 丹沢産シカの高密度が鳥類群集に与えている影響. 神奈川自然誌資料, (25): 1-4.

(山口: 県立丹沢湖ビジターセンター,
葉山: 日本大学生物資源科学部,
畑・神戸・鈴木・原: 日本野鳥の会神奈川支部)